

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成21年4月2日(2009.4.2)

【公表番号】特表2008-539465(P2008-539465A)

【公表日】平成20年11月13日(2008.11.13)

【年通号数】公開・登録公報2008-045

【出願番号】特願2008-509015(P2008-509015)

【国際特許分類】

G 02 B 26/10 (2006.01)

H 04 N 1/028 (2006.01)

G 06 K 7/10 (2006.01)

【F I】

G 02 B 26/10 101

H 04 N 1/028 A

G 06 K 7/10 D

【手続補正書】

【提出日】平成21年2月5日(2009.2.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

スキャンミラーの運動をモニタするための装置であって、

永久磁石および活性化可能な駆動コイルを有する駆動部であって、該永久磁石は、永久磁場を有しており、該永久磁石と一緒に運動させるために、該ミラー上に搭載されており、該活性化可能な駆動コイルは、周期的な駆動信号によって活性化されたときに、該磁石の該永久磁場と相互作用する電磁場を生成し、該ミラーおよび該磁石と一緒に運動する、駆動部と、

該ミラーおよび該磁石と一緒に運動を表している第1のフィードバック信号を生成するための、該磁石の付近の第1のフィードバックコイルであって、該第1のフィードバックコイルはまた、該駆動コイルの付近にも存在しており、該第1のフィードバック信号はまた、駆動信号とのクロストークによって劣化されている、第1のフィードバックコイルと、

第2のフィードバックコイルであって、該第1のフィードバックコイルと比べて、該磁石から離れて配置されており、該第1のフィードバック信号よりも弱い第2のフィードバック信号を生成するように動作可能であり、該第2のフィードバック信号もまた、該ミラーおよび該磁石と一緒に運動を表しており、該第2のフィードバックコイルはまた、該駆動コイルの付近にも存在しており、該第2のフィードバック信号はまた、該駆動信号とのクロストークによって劣化されている、第2のフィードバックコイルと、

該フィードバック信号を処理するための手段であって、該第1のフィードバック信号から該クロストークを除去することにより、該スキャンミラーの運動を表している、クロストークが低減されたフィードバック信号を生成する、手段と

を備えている、装置。

【請求項2】

前記駆動部は、ボビンを含んでおり、前記駆動コイルおよび前記フィードバックコイルは、該ボビンのまわりに巻かれている、請求項1に記載の装置。

【請求項 3】

前記処理手段は、前記第1のフィードバック信号からの前記第2のフィードバック信号の減算を含んでいる、請求項1に記載の装置。

【請求項 4】

前記処理手段は、1つの円周方向に巻かれている第1のフィードバックコイル、反対の円周方向に巻かれている第2のフィードバックコイル、および該第1のフィードバックコイルと該第2のフィードバックコイルとを電気的に接続するための手段を含んでいる、請求項1に記載の装置。

【請求項 5】

前記装置は、レーザをさらに含んでおり、該レーザは、前記スキャンミラーにレーザビームを配向し、該スキャンミラーは、該スキャンミラーの運動の間に、該ビームを掃引するため、該スキャンミラーから、該ビームを反射させる、請求項1に記載の装置。